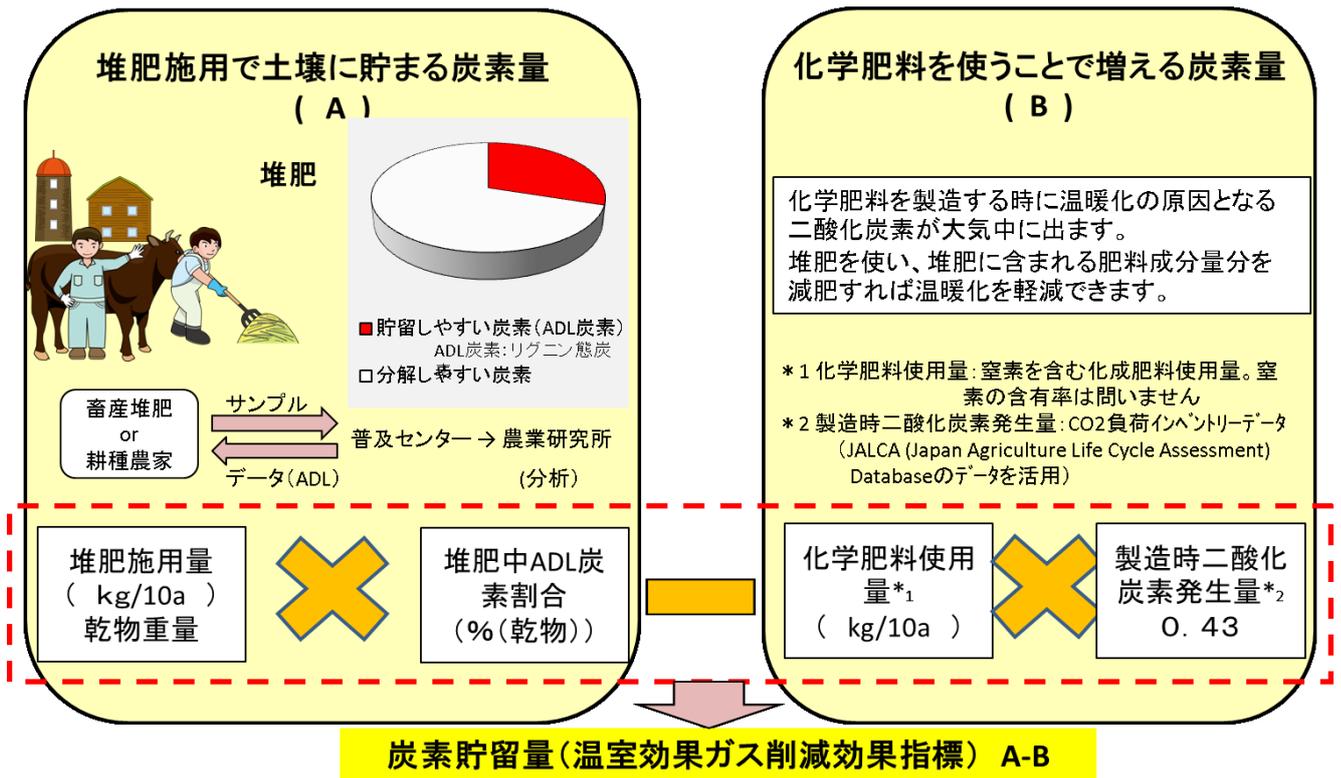


堆肥施用の温室効果ガス削減効果を消費者に示す評価法

利用対象：環境保全型農業実践農家

環境保全型農業を実践されている農家は年々増えてきていますが、その取り組みが環境に対してどれほど良い効果があるのかが消費者が判断できないため、生産物価格に反映されていません。そこで、堆肥を施用して化学肥料を削減する農法を行った場合の温室効果ガス削減効果を炭素貯留量として簡易に算出する方法と、その効果の「見える化」のための評価基準を策定しました。



計算した炭素貯留量の評価基準とその意味

炭素貯留量 (C kg / 10a)	評価	温暖化防止への貢献	土作り効果
0以下	0	無い	ほとんど無い
1~130	1	低い	乏しい
131~260	2	高い	水田なら充分
261以上	3	極めて高い	畑でも充分



写真の表示シールは熊野尾呂志の事例。生物多様性指標とともに表示

炭素貯留量評価を使って環境への貢献度を「見える化」した活用例

お問い合わせ先	フード・循環研究課 原 正之、堂本品子 中央農業改良普及センター 下 里緑	電話 0598-42-6361 電話 0598-42-6367
参考になる資料	三重農研HP: http://www.mate.pref.mie.lg.jp/marc/KenSeika/index.htm	

